

帰国報告書

北海道教育大学函館校

国際地域学科 地域協働専攻 国際協働グループ 3年

氏名 吉田紗希

留学先国名 中華人民共和国

大学名 瀋陽師範大学

2週間の短期プログラムを通して

今回私が、瀋陽師範大学海外短期プログラムを受けた理由は、昨年の夏の海外スタディーツアーで初めて中国を訪れて、日本にいるときに思っていた中国という国についての常識が覆されました。そのためもう一度中国に行き、知りたいと思ったからです。中国という国は、日本との交流が嫌なのか、日本に対して良く思っていないのではないかと感じていました。しかし、昨年のスタディーツアーや今回参加した、海外短期研修を通して、日本に対してマイナスの考えを持っている人は少ないのではないかと感じました。

今回のプログラムでは、はじめに口頭質問に答える入学テストを行い、それぞれのレベルに適したクラス分けをしました。平日の午前中は、ヒヤリング、スピーキング、初級中国語という3つのクラスを受講しました。教科書に沿って授業が行われるのですが、本文を暗記し、実際に話してみたり、例文を使って、クラスメイトや先生と練習をしたり、アクティブラーニングが多く、とても良い時間を過ごすことが出来たと思っています。

また、中国語がほとんど話せない状況での今回のプログラムだったので、瀋陽師範大学の日本語専攻の学生が1対1でボランティアとしてついてもらいました。午後は、自由時間が多く、ボランティアの学生を中心に、デパートにショッピングなどにも行きました。私は、男性アイドルが好きでそのことを中国の学生に伝えたら、彼女は中国のアイドルを教えてくださいました。曲の歌詞の読み方やピンイン、意味を図書館で教えてもらいました。

先生方、中国の学生、みんないい人でとても良い時間を過ごすことが出来ました。

これから留学する人に向けて

中国に行くのは、正直はじめはドキドキしました。日本では様々な情報が流れていて私自身混乱していました。しかし、行ってみたら考えが変わると思います。私は、本当に中

国が好きです。人も優しく、食べ物も美味しいです。また、このプログラムでは、中国語の学習がとても充実していました。どのように習得していけばいいのか、先生方のアドバイスも適格でした。

また、このプログラムで出会った中国の友人とは、今も連絡をしています。このことが、今の私の中国語学習の頑張る励みにもなっています。一人の友人が私に話してくれた言葉があります。「自分の好きなものが、自分の一番の先生」、教えてもらった中国のアイドルとその人が私の一番の先生です。プログラムに参加しようか悩んでいる人にも、自分の先生を見つけるような研修になってほしいと思います。



中国の学生と火鍋



中国民族楽器の鑑賞・体験



クラスメイトと先生



ボランティアの学生と中華料理



ショートヘア3姉妹



テレサテンを歌いながら綿あめを作る